

私立大学研究ブランディング事業 2018年度の進捗状況

学校法人番号	261009	学校法人名	真宗大谷学園		
大学名	大谷大学				
事業名	仏教を基軸とする国際的研究拠点の形成と〈人間学〉の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	2995人
参画組織	文学部・文学研究科・真宗総合研究所・図書館・博物館・東方仏教徒協会				
事業概要	<p>行き過ぎた近代合理化が〈生の意味喪失〉を引き起こしてきた。近現代という時代を反省的に問い返そうとする試みがなされてきたが、環境・人権・生命倫理など根源的問題の克服が急務である。そこで、そのような問題に応え得る仏教の可能性を示す。仏教を中心とする国際的研究拠点を構築し、本学独自の〈人間学〉を推進する。仏教研究の重要性が世界に再認識されるよう戦略的ブランディング事業を展開する。</p>				
①事業目的	<p>今から遡ること約百年、マックス・ウェーバーは近代の合理化が〈生の意味喪失〉を引き起こすという重大な問題を提起した。その後、とくに二つの世界大戦を経て以降、近現代という時代を批判的・反省的に問い返そうとする試みは様々な仕方になされてきた。しかし現実には、現代産業社会において世俗化はますます進行し、グローバル化した市場経済の坩堝のなかに投げ出された人類にとって、環境、人権、生命倫理など〈生の意味喪失〉の問題は一層深刻なものとなっている。加えて、市場原理は大学などのアカデミックな領域にまで浸透し、その影響で、社会に対して実質的・具体的な貢献をなし得ると見なされる応用科学などの実学が偏重され、人文学や理科系の基礎学などは厳しい淘汰の波に洗われている。しかし、〈生の意味喪失〉という根源的な問題に直面し、その克服が急務である状況にあって、人文学とりわけ仏教学のような学問は、その問題に対して直接的に応え得る大きな可能性を有している。</p> <p>そこで、本学は、次の4つを事業の柱として設定する。第1に、本学がこれまでに取り組んできた仏教研究の蓄積をもとに、国際的研究基盤を形成する。第2に、アメリカやヨーロッパやアジアとのあいだで共同研究を推進する。第3に、人的交流を促進する。第4に、〈人類の知的遺産〉である仏教を社会に対して本学独自の〈人間学〉として開いていく。言い換えるなら、仏教の根幹にある〈社会の現実と向き合い、真実を探求し、確固たる生きる拠り所を持って歩む〉という精神に根ざす人文学を、本学独自の〈人間学〉として社会に開いていく。このように、本学は、伝統的な古典文献学に基づく仏教思想研究を柱としながらも、社会学領域や教育学領域などにも貢献することのできる臨床的仏教研究、社会の要請に応えることのできる研究を推進する。そして、この事業を通して、現代社会のなかで人間の確固たる生き方を探求する独立者の育成を使命とする〈人間学〉の大学であるというブランド・イメージを確立する。</p>				
②2018年度の実施目標及び実施計画	<p>I. 研究活動における実施目標及び実施計画</p> <p>【実施目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際シンポジウムの開催 ○「日越仏教史」の出版 ○ベトナム人学生のRA登用による研究事業参加 <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「歎異抄の英訳研究ワークショップ」の開催・参加(8月、3月) ②エトヴェシ・ロラード大学への日本仏教学講座(集中講義)の提供(3月) ③エトヴェシ・ロラード大学と共催で国際シンポジウム「Buddhism in Practice 仏教の実践」を開催し成果発表(9月) ④ベトナムとの共同事業「日越仏教史」の出版(出版事情により次年度の納品可能性)と記者発表 ⑤ベトナム人学生のRA登用 ⑥中国の学術誌「仏学研究」に成果発表。 ⑦日本宗教学会学術大会における東方仏教徒教会(EBS)でのパネル発表(9月) <p>II. ブランディングにおける実施目標及び実施計画</p> <p>【実施目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年間の活動の検証と数値目標の再設定 ○事業紹介用パンフレットの作成・配付 <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①記者発表:情報価値を高めるため「日越仏教史」とRA登用を日本とベトナムで発表 ②The Eastern Buddhist誌の出版事業の継続(2誌発行) ③事業紹介用パンフレットの作成・配付 ④オープンキャンパスと全国保護者会での研究紹介の継続:アンケートによる効果測定 ⑤本事業Webサイト(英語版)の公開。日本語Webサイトのアクセス目標の設定 ⑥満足度調査を実施し、学生へのブランディングの状況を測定する ⑦2年間の総括による改善施策の行動計画策定 <p>【達成基準】</p> <p>研究活動は、出版を除く全活動の実施。ブランディングは、実施計画をすべて実施することに加えて2年間の総括による改善施策の行動計画策定が基準。</p>				

<p>③2018年度の事業成果</p>	<p>I. 研究活動における成果 大谷大学における最新の仏教研究を真宗総合研究所にて集約・発信し、海外の研究者とのネットワークを構築することができた。 計画① カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターの協定に基づく「歎異抄の英訳研究ワークショップ」を開催(8月、3月) 計画② 2019年3月18日～26日の間で6日間、エトヴェシ・ロラード大学にて日本仏教学講座(集中講義)を開講 計画③ 2018年9月17日～18日の2日間、ブダペスト(ハンガリー)のエトヴェシ・ロラード大学(ELTE)において、ELTE仏教研究センター・東アジア研究所と大谷大学真宗総合研究所共催の国際シンポジウム“Buddhism in Practice”を開催 計画④ ベトナムとの共同事業における出版については継続して協議している。 計画⑤ ベトナム仏教研究のさらなる推進に向け、ベトナム人研究補助員(RA)を採用。 計画⑥ 2019年5月に中国の学術誌「仏学研究」に成果発表を公開予定。 計画⑦ 2018年9月7日～9日にかけて行われた「日本宗教学会第77回学術大会」において、東方仏教徒教会(EBS)主催で「21世紀の日本仏教・仏教学と社会貢献」というテーマでパネル発表を行い、多数の専門家との意見交換・交流を行った。 その他 2018年6月17日～21日の4日間、スイスのベルン大学で開催された第16回ヨーロッパ宗教学会年次大会(16th Annual Conference of the European Association for the Study of Religions)に参加。ヨーロッパ最大級の宗教学会でのパネル発表により大谷大学の仏教研究を発信した</p> <p>II. ブランディングにおける成果 計画② The Eastern Buddhist誌を出版(7月・2月) 計画③ 大谷大学広報第199号「じんげんajile2018春夏号」にて事業紹介の記事を掲載し、在学生及び父母兄弟等に向けて情報発信を行った。 計画④ オープンキャンパスにて計7回ブース出展を行い、来場者を対象に事業紹介を行った。また全国保護者会(281組349名)、教育後援会事業(近畿・岐阜・仙台にて実施来場者 計172名)、同窓会事業(735名参加)でも事業紹介を行った。 計画⑤ 当該事業のWebサイトページの閲覧実績 1,652レビュー(2018.04.01～2019.03.31) 英語版Webサイトの公開 計画⑦ ワーキングチームの会議を3回開催し、事業の進捗・改善施策を検討。</p>
<p>④2018年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ・2019年4月24日開催の「研究ブランディング事業ワーキングチーム会議」において、自己点検・評価を行った。リポジトリでの大谷大学真宗総合研究所紀要のダウンロード件数が2017年度から1.5倍増(32,563)、JSTOR(Journal Strage)でのビュー数が1.4倍(17,824)と増加しており、本学の研究の情報発信が成果として表れている。 また、本学在学生から大学が研究に力を入れていることを知ったという声もあった。 実施できていない事業については、計画の変更も視野に入れ検討を行う。 ・2019年6月開催予定の「教育研究支援委員会」において、自己点検・評価を行う。</p> <p>(外部評価) ・2017年度実施事業について、外部評価委員会(中国・清華大学 聖凱准教授、モンゴル国立大学 ガンツヤー教授、中国社会科学院歴史研究所 雷聞教、ハンガリー・エトヴェシ・ロラード大学 ハマル・イムレ教授)による、外部評価を実施した。評価項目は「研究計画の妥当性」「研究進捗状況」「研究体制」「研究成果」の4項目を設定し、評価は各項目ごとに4段階(Excellent, Good, Average, Poor)で評価を行った。また評価項目以外に「本事業への期待」「本事業への助言」という質問を設定し、コメントをお願いした。</p> <p>研究計画の妥当性 (Excellent 4, Good 0, Average 0, Poor 0) 研究進捗状況 (Excellent 3, Good 1, Average 0, Poor 0) 研究体制 (Excellent 3, Good 1, Average 0, Poor 0) 研究成果 (Excellent 3, Good 1, Average 0, Poor 0)</p> <p><本事業への期待> So far, the activities and publications are still focusing on the academic research in Buddhism. However, both the mission of the Otani University and the aim of this project have a broader vision. The founding spirit of the university as follows: “to nurture people who can live autonomously as a member of society on the basis of the Buddhist spirit.” One point of the central pillar of this branding project is “to make Buddhism available to society at large in the form of ‘human studies’ unique to our university”. I hope to see more efforts and more achievements in regarding to the role of Buddhism in modern society, in solving the contemporary problem of “sense of meaninglessness”.</p> <p><本事業への助言> ・It is recommended more and more broad-based collaboration with Buddhist studies centers and schools. ・It might be more international if one or two Chinese young scholars could be involved in this project and some articles be published in Chinese.</p> <p>※2019年7月に同外部評価委員による評価を受ける予定である</p>
<p>⑤2018年度の補助金の使用状況</p>	<p>研究ブランディング事業にかかる経費として、「③2018年度の事業成果」に記載の事業(国際学会での研究発表等の旅費及び参加費、The Eastern Buddhist誌の発行にかかる印刷製本費、委託費、支払手数料及び広告費)に使用した。</p>